

香川県農業・農村審議会議事概要

- 1 日 時：平成 28 年 3 月 23 日（水） 15 時～16 時 30 分
- 2 場 所：県庁 12 階 大会議室
- 3 出席者：赤松委員、大西委員、大山委員、香川委員、片岡委員、木村委員、強谷委員、佃委員、橋田委員、林委員、松本委員、三笠委員、三原委員、宮武委員
- 4 議 題
 - (1) 会長・副会長の選任について
 - (2) 香川県農業・農村基本計画の進捗状況について

【議事要旨】

- (1) 会長・副会長の選任について
互選により片岡委員を会長に、栗田委員を副会長に選任した。
- (2) 香川県農業・農村基本計画の進捗状況について
事務局から、香川県農業・農村基本計画における平成 27 年度の取組状況と今後の対応、目標値に対する達成状況について説明を行った後、審議を行った。
主な意見は次のとおり。

○委員

耕作放棄地について、目標値の達成状況は「A」評価となっているが、実際には、耕作放棄地が増加しているのではないかと。

→（事務局）

- ・ 現行計画での指標は、耕作放棄地となっているものの解消面積であり、その目標値を達成していることから、「A」評価となっている。
- ・ 一方で、ご指摘のとおり、新規発生により耕作放棄地全体では面積が増えていることから、新たな香川県農業・農村基本計画では、耕作放棄地の削減面積を指標にしており、発生を抑制しつつ解消に努めて、耕作放棄地自体の削減を目指してまいります。

○委員

担い手の確保と生産基盤の整備を表裏一体で進めてもらいたい。新規就農者は増えているものの、担い手不足は否めない。生産基盤の整備を推進し、農地の有効活用を進めながら、担い手の確保に取り組んでももらいたい。

→ (事務局)

- ・ 新たな農業・農村基本計画では、農業の持続的な発展に向けて、力強い担い手を確保・育成するとともに、本県の特性を踏まえ、地域を支える集落営農組織を確保・育成することとしている。大規模な基盤整備を志向する担い手に対しては、国の基盤整備事業の活用を推進するとともに、集落営農組織に向けては、利用しやすい小規模な基盤整備事業を県単独で仕組んでいるところ。今後、こうした事業について地域で併せて説明し、現場のニーズにマッチした事業の活用を促進してまいりたい。

○委員

今年の米の食味ランキングでは、残念ながら「おいでまい」は3年連続の「特A」は得られなかった。他県では篩い目を1.9mmにしているところもあるようなので、「おいでまい」も現在の1.85mmから1.9mmに変更してはどうか。

→ (事務局)

- ・ 現場で努力していただいている中、「特A」の評価が得られなかったことは残念に思う。県では、「おいでまい特Aプロジェクトチーム」において原因を分析しているところであり、28年産米の「特A」獲得に向けて、「おいでまい」の品質特性を踏まえながら、対応を検討してまいりたい。

○委員

鳥獣被害については、目標値と実績に乖離がみられるが、どのような状況か。

→ (事務局)

- ・ 鳥獣被害金額は280百万円まで増加していたが、鳥獣被害対策の実施により、高い水準ではあるものの、被害金額の増加を何とか抑制しているところ。近年、人身被害も増加しており、今後は、捕獲奨励金の通年交付や県捕獲体の活動により、個体数の削減にも取り組んでまいりたい。

○委員

イノシシやサルによる農作物被害のほかに、野犬による子牛の被害もある。農業者は鳥獣被害に関する意識は高いが、一般県民はあまり関心がないと思われるので、対応を考えてもらいたい。

また、新規就農者が増えているようだが、IFKへの新規加入者は少ない。新規就農者が孤立することなく、青年農業者同士が交流できるよう、働きかけてもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 野犬対策については、イノシシなどの野生鳥獣とは別の観点で進める必要がある。被害の実態について一般県民の理解を深めることも重要であり、対応を検討してまいりたい。
- ・ 新規就農者の仲間づくりについては、市町等とも連携しながら、積極的に支援してまいりたい。

○会長

事務局には、本日の議論を参考に、新たな香川県農業・農村基本計画の目標の達成に向けて、本県農業・農村のより一層の振興に努めてもらいたい。

「以 上」